

ほっかいどう同窓会会長ご挨拶

真弓 明彦（昭和 54 年工学部卒）



本年5月に開催された北海道大学ほっかいどう同窓会総会にて、三上隆会長の後任として、大役をお引き受けすることになりました真弓でございます。微力ではありますが、本同窓会および母校の発展のために、しっかり取り組んでまいります。会員の皆様におかれましては、引き続きのご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

北海道大学ほっかいどう同窓会は、地元北海道における学部横断的な地区同窓会組織として平成26年4月に設立され、本年設立10周年を迎えました。本同窓会におきましては、交流会・講演会の開催、ホームページの管理・運営、会員名簿の管理・発行等を主な活動としております。ここ数年は、コロナ禍による対面行事の自粛など、会員同士の交流が難しい時期が続きましたが、メールマガジンの発行や、インターネットを中心に会員の皆様と情報交換するスタイルを取り入れ、ネットワーク型の活動を続けてきました。ようやく、これまでの日常を取り戻しつつある中、今後は同窓生同士のリアルな交流を、一層積極的に行ってまいりたいと考えております。

ほっかいどう同窓会の最大の特徴は、学部・学科ごとのいわゆる縦割りの同窓会ではなく、学科の垣根を越えた「北海道在住の北海道大学卒業生」により構成されていることにあります。会員数は、606名（令和6年4月末現在）ですが、出身学部は様々であり、学部・学科同窓会にはない会員相互の広いネットワーク形成を可能にする組織でもあります。そして、ほっかいどう同窓会は大学の教職員・在学生、さらに在学生の父母等の保護者を含めた全ての関係者で構成する組織である「北海道大学 校友会エルム（愛称；エルム会）」と歩調を共にし、活動を進めています。エルム会は大学との新たな協働・連携体制の下、大学への支援強化を大きな目的としております。我がほっかいどう同窓会は、母校のお膝元である北海道在住の卒業生を中心に、エルム会と共に母校を盛り立てる役割があると言えます。

皆様ご存知の通り、北海道大学は2026年に創基150年の節目を迎えますが、総長のリーダーシップの元、2030年のターゲットイヤーに向かうべき指針として「HU VISION 2030」が示され、現在様々な取り組みを力強く推進しています。北大には世界・地域双方の課題を、研究を通して解決する社会的役割があり、国際社会と地域社会が強く連携しながら歩むべき北大の姿も、HU VISION 2030に示されています。これまでの北大の長く重厚な歴史は、同窓生の皆様の歩みの積み重ねでもあります。記念すべき節目、そしてその先に向かって、我々同窓生が北大に誇りを持ち、北大とともに歩み。母校をしっかり支えていくべきとも考えております。

会員の皆様には、本同窓会と校友会エルムの諸活動への積極的な参加を通じ、「北海道大学を卒業した」という共通の絆を持っていただき、母校の発展にお力添えをいただければと思います。また、参加することが楽しいと感じられるような同窓会にすべく、尽力してまいりたいと考えておりますので、ぜひ会員の皆様のご意見や要望等をお寄せください。

重ねまして、今後ともご理解とご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。